KYOTO×教育DXビジョン（令和５～７年度）

教育DX（デジタルトランスフォーメーション）実現までの途上にあたる今後3年間で、
特に教育の情報化の観点から、目指す子ども・教職員の姿や取組の道筋を示す指針

教育ＤＸの実現

全ての子どもが自らの可能性を
最大限発揮できる、新しい教育の創造

Society5.0（超スマート社会）
VUCA（不透明で変化の激しい時代）
Well-Being（一人一人の多様な幸福）
Innovation（技術革新による社会変革）
DX（デジタル技術による新たな価値の創造）

目指す「子どもの姿」と「教職員の姿」

子ども	全ての子どもが学びの当事者として、デジタルならではの強みを理解し活用することで、自分らしい学びを実現するとともに、多様な他者と協働しながら、粘り強く挑戦を続ける姿
教職員	全ての教職員が子どもに丁寧に寄り添い、ICTの活用を通して主体的な学びに伴走するとともに、校務DXの実現による事務効率化と学校文化の変革を通して、健康で心豊かな生活の中で自らも生き生きと学び続ける姿

目指す姿の実現に向けた「６つの道筋」

① デジタルならではの強みを生かした学習活動の充実

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 学校教育活動全体を通した情報活用能力の育成
- 大学や企業が有する最先端の知見の活用、オンラインならではの多様な学習体験の創出
- 教職員のICT活用指導力の向上、教師主導から学習者主体の授業への転換
- 学級閉鎖等の緊急時の学習保障

② デジタル社会の善き担い手の育成

- 子どもがデジタル技術を正しく効果的に活用しながら社会に参画しようとする姿勢や必要な能力を育成する、デジタル・シティズンシップ教育の理念を踏まえた取組の推進
- 保護者や地域と共に進める情報機器の利用ルールやインターネットの危険性を伝える情報モラル教育の継続実施

③ 誰一人取り残されない、個に応じた指導・支援の充実

- 教室内の全ての子どもがそれぞれの特性を持っていることを前提とする、一人一人の特性に応じた指導・支援
- 障害等のある子どもに対する合理的配慮の下でのきめ細かな指導・支援
- 不登校等の子どもに対するオンラインを活用した心の居場所づくり

④ 校務のデジタル化による働き方改革の推進、学校文化の変革

- デジタル活用を前提とする、事務作業だけに留まらない学校教育活動全般や保護者との連絡のあり方などの抜本的な見直し
- 全ての教職員が学び続け、生き生きと働ける多様な方策の追求

⑤ 教育データの利活用

- 児童生徒による学習履歴データの活用と学習の自己調整
- 教職員による児童生徒一人一人の学習状況や学級の傾向の把握
- 教育委員会によるデータ利活用環境の整備、客観的データに基づく教育政策の立案・検証

⑥ 安心で快適なICT環境及びサポート体制の整備

- ICT機器を安心安全に、かつ、積極的に活用するための適切な管理・更新
- ICT支援員の配置など学校サポート体制の継続
- 学校発の積極的なICT活用の促進や多様な働き方の実現を支えるための、より安心で快適な環境を目指した方策の検討

計画期間：令和５～７年度

（計画期間中にも必要に応じて柔軟な修正を行う）

取組の進捗状況を測る指標　以下の5つを指標とし、年度ごとの分析を通して取組の検証・改善につなげる

- 指標1　一人一台端末等のICT機器を授業で毎日活用する学校の割合
- 指標2　一人一台端末等のICT機器が勉強の役に立つと考える児童生徒の割合
- 指標3　児童生徒の情報活用能力に関する指標【今後検討】
- 指標4　教職員が授業においてICTを活用して指導する能力
- 指標5　ICTを活用した校務の効率化に取り組んでいる学校の割合

本格活用元年（令和２～３年度）

充実期（令和４年度）

京都市教育委員会
教育ICT化推進チーム

ver1.0（令和5年3月31日策定）
ver1.1（令和6年3月31日改訂）
ver1.2（令和7年3月31日改訂）